

本論文はメンズスカートを対象としてジェンダーレスについて解明するものである。本論文を通じて明らかになるのは、メンズスカートはジェンダーレスではなく、違和感のない1つのファッションアイテムとして成り立っているということである。「メンズ」「レディース」として隔てらずに着用できるということも明らかにする。

スカートの起源は古代や中世で男性が着用していた。長い歴史の中で女性が着用するものに変化してしまったことによって、スカートは女性が着用するものであるという先入観ができてしまったのではないだろうか。そのことによってメンズスカート、そして男性がスカートを着用することがジェンダーレスであると言われてしまうと考察した。

本稿では第1章ではスカートの歴史、第2章ではジェンダーについて、第3章ではスカートを着用している男性の方々のインタビューについてとなっている。第1章ではスカートは長い歴史の中で女性が着用するものへと変化した、キルトスカートの文化などは途絶えていないことが明らかとなった。そして、国内外に問わず、様々なブランドがメンズスカートを発表していた。ジェンダーではなく個性や可能性を広げるためではないかと考える。第2章ではファッションにおけるジェンダーレスがメディアやSNSによって広まったことによってイメージが出来上がってしまったのではないかと考察した。そして、男性もジェンダーに抑圧されているのではないかと考えた。第3章のインタビューではメンズスカートを着用することがジェンダーレスだと言われることについては否定的な意見が多かった。性別やジェンダーに対する価値観を押し付けられているように感じるという意見が多かった。

結論として、ジェンダーレスという新たな枠組みが出来てしまったのではないかと考える。「らしさ」という考え方が深く根付いてしまっており、その概念に当てはまらないことを「ジェンダーレス」という言葉で結論付けてしまっているのではないかと考える。だが、その一方で個性を尊重する動きもある。様々なブランドがメンズスカートを発表していることはもっと自由になろうというメッセージも込めているのではないだろうか。

この論文ではスカートというファッションアイテムに焦点を当てた。スカートを着用している男性の方々にインタビューをして、生の声を聞くこともできた。この論文を通じて、先入観を持たず他者を否定しないこと、そして自分の着たいファッションはもちろん、生き方をしたい人たちの後押しとなれば良い。